

音楽文化創造学科教授 舟橋 三十子

1. 研究活動

【科学研究費採択】			
科学研究費助成（基盤研究(C)(一般)）採択課題「音楽基礎教育としての独創的なソルフェージュ教材開発に関する総合的研究」研究代表者 2013年度～2015年度（研究課題番号：25370119）	2013. 4. 1 ～ 2016. 3. 31	日本学術振興会	音楽の基礎学習としてのソルフェージュ教育の原点に立ち返り、独創的な教材を研究し、新たな指導方法の確立を目指す。
【WEB連載】			
みとこ先生の音大入試の楽典ガイド～名曲で学ぶ音楽の基礎～ 第6回	2015. 4	音楽之友社ホームページ	2014年度 国立音楽大学入試問題「B. Bartok:《九つのピアノ小品》Sz. 82の第3曲」より、移調楽器と西洋音楽史の解説。 応用問題：モーツァルト作曲《クラリネット五重奏曲》第1楽章を用いた移調楽器の問題と、西洋音楽史の問題。
みとこ先生の音大入試の楽典ガイド～名曲で学ぶ音楽の基礎～ 第7回	2015. 6	音楽之友社ホームページ	2014年度 愛知県立芸術大学音楽学部入試問題「J. Brahms: 2 Rhapsodies op. 79 No. 1」と「N. バガニーニ:《24のカプリス》op. 1-14」より、和音の種類とソナタ形式の解説。 応用問題：ショパン作曲《12の練習曲》op. 25より第1番を用いた和音の種類の問題と、第2主題を答える問題。
みとこ先生の音大入試の楽典ガイド～名曲で学ぶ音楽の基礎～ 第8回	2015. 8	音楽之友社ホームページ	2014年度 東京芸術大学音楽学部入試問題「W. A. Mozart 作曲《魔笛》」より、音階とオペラの解説。 応用問題：ドヴォルザーク作曲 交響曲第9番《新世界より》第2楽章を用いた旋法の問題と、オペラの問題。
みとこ先生の音大入試の楽典ガイド～名曲で学ぶ音楽の基礎～ 第9回	2015. 10	音楽之友社ホームページ	2014年度 上野学園大学音楽学部入試問題「ベートーヴェン作曲 弦楽四重奏曲第8番《ラズモフスキー》op. 59-2」より、七の和音、作曲家とパトロンの解説。 応用問題：ドビュッシー作曲：《ベルガマスク組曲》より第4番《パスピエ》を用いた七の和音、ナボリの和音の問題と、作曲家と作品とパトロンの問題。

みとこ先生の音大入試の楽典ガイド～名曲で学ぶ音楽の基礎～ 第10回	2015. 12	音楽之友社ホームページ	2014年度 相愛大学音楽学部入試問題「ブラームス作曲：弦楽五重奏曲op. 111」より、音程と室内楽の解説。 応用問題：シューマン作曲：《幻想小曲集》より〈飛翔〉を用いた音程の問題と、室内楽の問題。
みとこ先生の音大入試の楽典ガイド～名曲で学ぶ音楽の基礎～ 第11回	2016. 2	音楽之友社ホームページ	2015年度（複数大学に掲載）コード・ネーム、リズム・拍子に関する入試問題。 応用問題：コード・ネームとリズムの問題。
【講座】			
「名曲から読み解くクラシック音楽のしくみ」	第1回 2015. 10. 2 第2回 2015. 11. 6	朝日カルチャーセンター名古屋	拙著「クラシックの聴き方入門―名曲のスタイル分析 全80曲―」（ヤマハミュージックメディア刊）をテキストに用いて、古典派やロマン派のピアノ曲を中心に、有名な作品の楽曲分析を通して、より良い演奏や指導への活かし方をレクチャーした。
2015カワイ音研会10月例会「新しいソルフェージュ『フォルマシオン・ミュージカル』で音楽性・創造性を育もう～名曲で学ぶ音楽の基礎～」	2015. 10. 20	カワイ音楽教室三島センター	フランスの新しいソルフェージュ「フォルマシオン・ミュージカル」では、よく知られた名曲をテキストにして、聴音、新曲はもとより、リズム練習、移調練習、伴奏付け、弾き歌いだけでなく、知らず知らずに音楽史や音楽理論の知識も身に付けられる講座。ソルフェージュを身近に感じてもらうにはどうしたらよいか探り、新しい切り口でソルフェージュにアプローチした。
「シリーズ〈日本人とは〉日本人と音楽」	2016. 3. 27	朝日カルチャーセンター名古屋	生まれながらの農耕民族である日本人が、いつ頃からか日本の伝統音楽を異質なものとし、西洋音楽を快いものとして聴くようになったのか、身近な日本の童謡や演歌をひも解いてみると見えてくる日本人像とは、どのようなものか、具体例を挙げながらレクチャーした。
【コンクール審査】			
ローランド・ピアノ・ミュージックフェスティバル 2015九州B本選 小学生部門A・小学生部門B	2015. 12. 13	鹿児島市民文化ホール第2ホール	予選に合格した参加者の、ステージ演奏を審査し、講評した。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績） 大学院授業担当 有 無

授業科目名 ソルフェージュ I、II、ソルフェージュ特論	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
一般的な聴音、新曲だけでなく、分析、理論、移調、リズム、音程練習等を加えてアプローチしている。また、様々な時代や作曲家、国の名曲をテキストに用い、幅広い視点から音楽をとらえ、学生が何のためにソルフェージュを学ぶのか、その目的をはっきりさせて、授業を学ぶモチベーションを高めるようにしている。	フランスの教本（フォルマシオン・ミュージカル）の日本語版（拙訳）を用い、新しい考え方に基づいた方法を実施している。また教材として用いた作品のCD、DVDを使用し、譜面からだけでなく、視覚的・聴覚的な要素も視野にいれた方法での楽曲へのアプローチを試みるようにしている。 ソルフェージュ特論では、エコール・ノルマルのソルフェージュの課題を中心に、授業を行っている。
授業科目名 楽式論（楽曲分析を含む）	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
よく知られたピアノ作品から始まり、最終的には、古典派、ロマン派、近代の作品までのアナリーゼを実施している。予習に重点を置き、自分の力で分析できるようにさせている。過去に学んだ和声学の知識を生かし、最終的にはポリフォニックな音楽にも踏み込んでアナリーゼできるようにしている。	基本的な和声の復習から始まり、小品だけでなく、最終的には簡単な室内楽の楽曲の分析ができるように、パソコンのソフト（フィナーレ）で作成した独自の譜面を参考資料として用いるようにしている。またDVD等のメディアを用い、オリジナルの編成での楽曲にも親しむように工夫している。
授業科目名 キーボード・ハーモニー	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
コードネームや和音記号を用いた伴奏付けや、旋律に合った対旋律（オブリガート）を付けるなど、音楽の教師を目指すに当たって、教育の現場で実際に役に立つ学習を行っている。よく知られた旋律に正しいハーモニーを付けるなど、和声学で学んだ机上の学問を実践で役立たせるように工夫している。	毎回の授業時に、CD、MD、DVD等の機器を使用して、1つの楽曲を様々な編成で演奏したものを模範として聞かせている。古今東西の名曲を教材として使用することは、幅広い知識を必要とされる音楽教育の面からも欠くべからざることなので、幅広いジャンルの曲を聞かせるように努めている。

3. 学会等および社会における主な活動

日本ソルフェージュ研究協議会	2009. 4～現在に至る	
日本音楽表現学会	2012. 6～現在に至る	
国際音楽教育学会（ISME）	2014. 4～現在に至る	